

オリジナル創刊百周年記念出版

# 復刻 歴世風俗印画集

## 写真でみる装いの文化史

大正13年(15年)の月刊誌「歴世風俗印画集」(風俗研究会発行全24巻)の復刻と、  
風俗研究会の主催者にして稀代の風俗史研究家・江馬務自筆の日記や随筆などの翻刻



鎌倉時代の武士 大鎧着用



歴世風俗印画集

江馬務 著 青江智洋 編・解説

定価27,500円(本体25,000円+税10%)  
B5・490頁 ISBN978-4-8169-3013-3  
2024年6月刊行



### 編者プロフィール

青江 智洋 (あおえ ともひろ)

1980年生まれ。2007年花園大学大学院文学研究科日本史学専攻(修士課程)修了。専攻は日本民俗学。日本風俗史学会会員。花園大学歴史博物館研究員を経て、2012年に京都府立山城郷土資料館学芸員となり、現在は京都府立丹後郷土資料館学芸員。

近著として、「江馬務の〈歴史の可視像化〉論—京都画壇と風俗研究会の萃点を論点として」(『人文学報』120号、京都大学人文科学研究所、2023年)、「解説」(『復刻 歴代風俗写真集』日外アソシエーツ、2023年)、「近代京都における農民美術と民芸—副業を奨励した二つの運動」(高木博志編『近代京都と文化—「伝統」の再構築』思文閣出版、2023年)などがある。

### はじめに (抜粋)

江馬は実証的研究によって日本風俗史を体系化した人物として知られる。その研究範囲は幅広く、古代から現代に至る風俗慣習、祭礼、有職故実、結髪、化粧、染織、衣食住など多岐にわたる。彼の研究成果の大半は『江馬務著作集』全12巻・別巻1巻(中央公論社、1975~82年)に結実しており、それは今日まで高く評価されている。

しかし、彼が自身の研究成果を社会に還元する方途としおこなってきたさまざまな活動については正当な評価がなされているとは言い難い。すなわち、彼が研究者であると同時に92歳まで教鞭をふるった教育者でもあったこと、京都画壇を担う画家たちの創作活動に寄与してきたこと、映画の時代風俗考証にかかるブレインとされたこと、社寺における祭礼や年中行事の考案または指導に力を注いできたこと、雑誌の編集をはじめ研究会や学会の企画運営に努めてきたことなどは今日においてあまり知られていない。今あらためて江馬が果たした社会的役割の意義を世に問う理由は、彼の残したものが現代あるいは未来において新たな価値を創造し得る可能性を秘めていると考えるからである。

既刊

## 復刻 歴代風俗写真集

風俗研究会 編 江馬務 解説 B5・470p  
定価 27,500円(本体25,000円+税10%) 2023.6刊

有職故実を風俗史学として開拓した江馬務の原点となった写真集『歴代風俗写真集』1~17(芸艸堂発行、大正5~11年)を1冊にまとめ復刻。平安末期公卿の衣冠、鎌倉時代武士の甲冑姿、戦国時代戦士の風俗、桃山時代の婦人の風俗、江戸時代中期婦人の旅装など、大正期に実施された扮装写生会で撮影された写真と解説を収録。新たに目次と写真一覧を付与して調べやすくした。『江馬務著作集』全12巻+別巻1(中央公論社、1975~1982)未収録の資料を掲載している。



「電子書籍版」もあります(※「Maruzen eBook Library」「KinoDen」「EBSCO eBooks」に搭載)

お問い合わせは… 日外アソシエーツ 営業局 TEL.03-3763-5241(代) FAX.03-3764-0845  
〒140-0013 東京都品川区南大井6-16-16 <https://www.nichigai.co.jp/>

注文書	<b>復刻 歴世風俗印画集</b> 一写真でみる装いの文化史 定価27,500円(本体25,000円+税10%) ISBN978-4-8169-3013-3	冊	取扱書店  9784816930133
	<b>復刻 歴代風俗写真集</b> 定価27,500円(本体25,000円+税10%) ISBN978-4-8169-2972-4	冊	 9784816929724

日外アソシエーツ



# 第一部 復刻 歴世風俗印画集

- ・1924～1926年、江馬務主宰の風俗研究会によって刊行された月刊誌「歴世風俗印画集」（全24巻）をまとめて復刻。衣裳、調度品、撮影地など風俗研究会員諸氏のこだわりと協力によって撮影された写真と、江馬務による解説を収録。
- ・発行部数が極めて少なく、国立国会図書館をはじめ、調査した限り、どの図書館も所蔵していない貴重な資料集成である。
- ・底本は『歴代風俗写真集』（芸艸堂、大正5～11年 日外アソシエーツ2023年復刻刊行）の後継である。
- ・生誕140年の今年、風俗研究者であると共に92歳まで教鞭をふるった教育者でもあった江馬の社会的役割の意義を問う。

## 第一編

- 1 久米舞の風俗
- 2 白拍子の風俗
- 3 武人大鎧着用の風俗
- 4 元禄婦人風俗
- 5 江戸時代武家大礼装（直垂）
- 6 切支丹風俗
- 7 官幣大社石清水八幡宮男神像
- 8 室町時代職人風俗
- 9 現代志那婦人風俗
- 10 化政時代七夕祭と町娘風俗
- 11 大山祇神社蔵紺糸威大鎧
- 12 慶長の武士と遊女風俗

- 13 藤原時代公卿直衣姿
- 14 大原女の正装
- 15 江戸武家礼装素襖
- 16 江戸化政時代の内儀姿
- 17 正月の門附
- 18 大和萬歳
- 19 中世少女外出姿
- 20 江戸時代末季履物のかずかず

## 第二編

- 1 小忌衣着用の公卿風俗
- 2 江戸季世御殿女中の姿
- 3 寛政頃の美人冬ごもりと外出姿
- 4 鎌倉時代姫君外出姿

- 5 江戸文政頃の旅姿
- 6 享保頃の町人と当時の遊女
- 7 天台宗の法服風俗
- 8 安永時代の納涼娘風俗
- 9 上古武装
- 10 文化頃の新婦姿
- 11 朝鮮男女風俗
- 12 島原太夫の風俗
- 13 傀儡師
- 14 手鞠
- 15 能楽風俗（高砂）
- 16 名妓吉野太夫所持蟹の盃台
- 17 雛祭風俗

# 第二部 江馬務研究

- ・江馬務の日記や随筆など自筆原本とその翻刻文、解説文で構成。
- ・<sup>さんじゅう</sup>卅三年度江馬年中日記、<sup>やまづと</sup>富士乃山苞、文科大学史学科三年史論の3篇を収録。
- ・江馬風俗史学の形成過程を知る上で重要な資料を収録。
- ・明治～大正～昭和という時代の変遷の中で目まぐるしく移り変わる京都の暮らしを伺い知ることができる。

## 「卅三年度江馬年中日記」

一九〇〇年（明治三三）一月一日から三月末日にかけて江馬務がつけた日記。当時の務は一七歳（数え年）であり、京都府第一中学校の二年生であった。彼が日記の冒頭に示した凡例によると、本書は江馬家における日々の所業を書き残し、家族で供覧して内省を促すものであるという。

## 「富士山山苞」

江馬務が一九〇一年（明治三四）八月八日に富士登山をした際の紀行文。本書において務は江馬好羈子のペンネームを用いており、文章の執筆とともに挿絵も手掛けている。

## 「文科大学史学科三年史論」

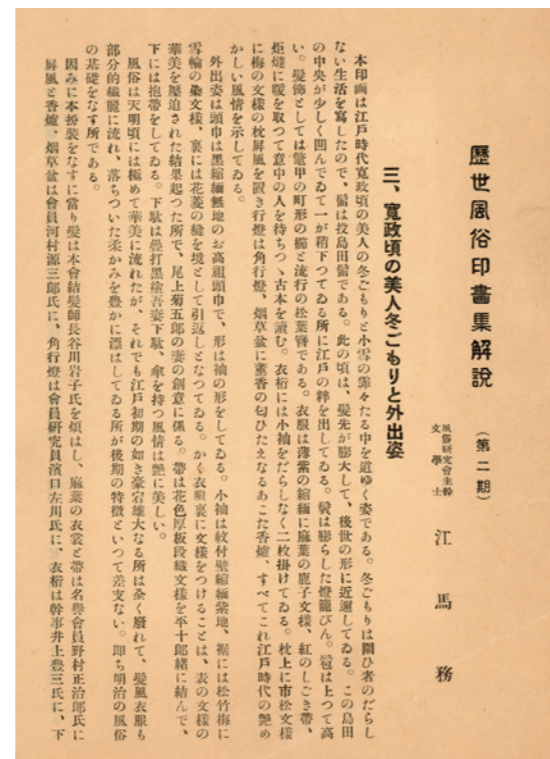
江馬務が京都帝国大学（現 京都大学）の三年生であった一九一〇年（明治四三）二月に編んだ風刺漫画風冊子。その内容は当時の教授や同期生等のエピソードを面白おかしく論じたものであり、文章も挿絵も江馬が手掛けている。

## 江馬 務（えま つとむ 1884-1979）

風俗史家、京都女子大学名誉教授、風俗博物館名誉館長。  
京都市生まれ。京都帝国大学文科大学史学科卒。有職故実を風俗史学として開拓。また、溝口健二監督『元禄忠臣蔵』など、映画やテレビ、時代祭の時代考証家としても活躍。



江戸時代寛政頃の美人の冬の外出



「文科大学史学科三年史論」より



「卅三年度江馬年中日記」より